

日本海横断航路の位置づけ

- 新潟港は、既に本州日本海側では最大の取扱貨物量であり、最多の定期コンテナ航路数であるものの、貨物の積み換えをすることなく目的地との間で貨物を輸送したいという港湾利用者のニーズや、首都圏の代替港湾としての期待に応え、地域経済の一層の発展に貢献するために、航路の一層の充実や利用促進に取り組み、新潟港の拠点性向上を図ることが重要である。
- 新潟港の拠点性向上のためには、現在直行航路が運航されていない、中国華南地域、東南アジア、極東ロシア、北米等への航路を開設し、これら地域と貿易のある企業による新潟港利用の利便性を高めることが有効である。
- 利便性向上のための航路開設はこのように複数考えられるところであるが、対象候補地域の特性、本県との関係性、航路の独自性を考慮し、短中期的には、本県の地理的優位性など強みを活かせる極東ロシアとの航路、企業からのニーズが高い中国華南地域への航路の開設、誘致に取り組み、その後、長期的には東南アジアや北米航路の誘致を検討するという段階を経るのがよいと考えられる。
- 特に、極東ロシア航路については、新潟港が、首都圏と、極東ロシアを対岸の玄関口とする北東アジア地域とを結ぶ最短ルート上にあるという地理的優位性、これまでの新潟県と北東アジア地域との交流の蓄積、中国・韓国・ロシアの総領事館が立地すること等、現在新潟県が有している強みを最も活かせる地域であると考えられる。
- 日本海横断航路は、このような極東ロシア航路を実現するためのものとして位置づけられるが、本航路を開設した場合、現在利用できる輸送ルートと比べて輸送時間を短縮することができ、
 - ・中国東北部、ロシア極東との間の貨物の集積
 - ・中国東北部、ロシア極東との間の新たな貿易・物流の創出
 - ・貨物の集積や新たな貿易・物流の創出を契機とした地域間交流の拡大といった効果があるものと考えられる。
- 日本海横断航路や、新潟港利用者のニーズに基づいた中国華南航路開設に向けた取組を進め、日本海側において独自性のある航路を運航することによって、貨物の集積を進め、拠点性を高めることで、長期的に東南アジア、北米等への航路誘致の検討につなげられる可能性があると考えられる。